— 京都市ごみ減量推進会議 —

こごみ日和

～みんなでごみゼロ～

No.45 2010.9

森がことばを語りはじめた。～法然院森のセンターに久山喜久雄さんを訪ねる。～

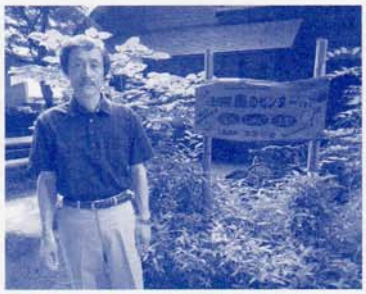
今回は、大文字山をフィールドに環境学習活動を実践している久山喜久雄さんに、お話をうかがいました。

久山:森の中では無数の生きものたちがつながりあい有機的な関係を保ち絶妙なバランスを形成しながら、長い年月をかけて、共に進化を遂げています。

人間も自然の一部であり、その恵みのうえに生きながらえてきたことを森は教えてくれます。

大橋:しかし、私たちの工業文明はその森の営みとは別の生き方を選択しました。そして、250年余りの時を経て、今、人類は数々の問題を抱え困難の中にあります。そして、とても疲れている。

久山:高度に発達した人間社会では自然界との乖離が進み、自然とどう向き合い、付き合っていいかわからなくなってしまっている感があります。その自然との隔たりこそが、あるいは森との関係を絶ったことが私たちの疲弊の原因であるともいえるのです。



大橋:人間社会では共同体(コミュニティ)が崩れ、人間同士の関係さえもが希薄なものになっています。要らないものは切り捨てるという観念が大きく私たちの心を支配しているのではないでしょうか。そこで、落ち葉はごみか?という質問を久山さんにしてみたいと思います。

久山:ごみが不用なものを指すことばだとしたら、それは森にはありません。でも、人は落ち葉を不要なものとして見がちです。本来、落ちた葉や枝(植物遺体)はきのこなどの菌類に分解されたり、土壌動物(微生物や小動物)に食べられます。それはやがて土に還っていき、また木々の栄養となり、おひさまの力を借りて新しい生命を芽吹かせるのです。

栄養の循環を知ってか知らずか、生きものたちは欠かせない営みとして営々と循環の行為を続けている

久山:近い将来、人間が森に求める物や事柄が何になるのか、これほど急速に環境が変化している時代に予測することは難しいのですが、森を意識し、現状をありのままに知ることが必要だと思います。その時のために学ぶ森という主旨でお寺の森で「観察の森づくり」を行っています。

大橋:最後に子どもたちへのメッセージをいただきたいと思います。

久山:子どもは、とても「自然」です。成長するに従って、私たちはいつのまにか「不自然」なことにも順応できる現代人になっていますが、子どもたちは、まだまだ本来人間に備わっている力と、好奇心、探求心、素直さなどを持ち、森の中での活動を楽しんでくれます。

自然界の成り立ちを知ることは、私たち人間が何者であり、どれほどのものかを知ることにつながります。私たちは自然環境なくしては生きていけない存在なのです。目には見えない生きものたちの共同作業に支えられているという事実を知り、生きもののつながりを知り、身のたけの豊かさを願うことが大切です。

子どもたちには、人間が生物であることを忘れないでほしいと願っています。

取材:大橋正明

世界のごみ箱から見えてくるもの。

京都大学環境保全センター助教
京都市ごみ減量推進会議理事
3R・低炭素社会検定実行委員長
浅利　美鈴

「ごみ」をテーマに研究を始めて、10年を超えた。まだまだ未熟者ではあるが、「ごみ」を見ると、その人の暮らしぶりや「お人柄」が、だいたいわかるようになった。

世界各地を歩くのが趣味だが、職業病か、気がつくと、ごみ箱やごみにカメラのレンズを向けてしまう。これが面白い。人と同じく、「お国柄」や「地域柄」をしっかりと映しているからだ。いくつか紹介させて頂きたい。

【スウェーデン】　まずは、先進的なイメージのある北欧から。これは、スウェーデンのごく一般的なスーパーマーケットの前に設置された資源回収ボックスである。市民の方々の利用頻度は高い。これ以外にも、地域ごとに、きめ細やかな分別ができる資源・有害廃棄物回収拠点があり、受け皿が充実している。行政のリーダーシップと、民間の協力、市民の参加がうまく回っており、うらやましい気持ちになる。なお、京都市においても、京都モデルの構築に着手しており、是非、ご注目頂きたい。

【イラン】　何かと物騒なニュースも多く、暮らしぶりをイメージするのも困難な国である。しかし、出会う人は、とても礼儀正しく正義感が強く、その国民性に好意が持てた。ヨーグルトに塩を入れる、フルーツ味のノンアルコールビールがあるなど、ユニークな食文化に驚かされたが、同時に、食文化に負けず、とてもユーモアのある楽しい国民だということを知った。それを象徴するかのような「ごみ箱」にカスピ海沿岸で出会った。資源の取り合いが行われているカスピ海であるが、恋人たちには関係ない。それらを眺めるかのように、なんとも心緩むような「ごみ箱」が佇んでいた。

【ブータン】　「国民総幸福度」で有名なブータンは、早いうちに訪ねたい国の一つだった。私も知らないが、戦後間もない日本を想像させる暮らしぶりで、圧倒的に物が少なかった。久々に「使い捨ての物」がなく、日本人旅行客が持ち込んだウェットティッシュが奇異に見えた。汚いごみが出ないことがよくわかるのが首都ティンプーの街角のこのショット。井戸端会議ならぬ、ごみ箱端会議。伝統衣装のキラも美しい。この風景がいつまでも変わらないであってほしいと、勝手ながら願わずにはいられない。

【チベット】　好対照なのがチベット。ここにも早く行きたかったが、2008年の暴動事件で一度目の訪問予定は頓挫した。2010年に念願がかなった。

すばらしいチベット仏教の宝に出会ったが、ラサの町は想像をはるかに超えた都会。ポタラ宮の前は地下道を作る工事の只中。真新しいごみ箱がヨソ者顔で巡礼者を眺めている。物も多く、中国の地方都市より余程豊かな印象だ。

【イギリス】　さすがの私も度肝を抜かれたのは、このごみ箱。イギリスのケンブリッジで出会った。よく見て頂きたい。中に人が入って、ギターをひいているのだ。どうやら、たまに現れる路上パフォーマーらしいが、このレトロなごみ箱と町の雰囲気があってこその芸術に、ただただ感服するばかり。日本／京都版はどうなるのだろう?

【シンガポール】　最後に、多国籍国として、また環境への取り組みに熱心な国としても有名なシンガポール。空港で出会ったのは、等身大のごみ箱。それぞれ回収したいものの形にデザインされている。これは、言葉がわからない人にも一目瞭然。ごみだって、これくらい主張しても良いんじゃないの!と一緒に言いたくもなる。

もちろん、ごみの中身も面白いが、それはまたの機会にお話するとして・・・もしも、面白いごみ箱に出会われたら、是非お知らせ願いたい。

シリーズ

「みんなで考える」

『歩くまち・京都』の実現に向けて、注目を集める次世代コミューター

インタビュー：京都市環境政策局環境企画部　環境管理課長　**宇髙　史昭さん**

聞　き　手：みんなのヴィジョン創造研究所代表　**大橋　正明さん**

今回は、京都市の環境政策の最新の動きをお伝えするため、環境に配慮した街づくりに向けて第一線で取組んでおられる環境管理課長の宇髙史昭さんにお話を伺いました。

宇髙　史昭さん

大橋:京都市は昨年度から5台の電気自動車を導入し、次世代コミューター（短距離移動のための乗り物）による市民の意識・生活スタイルの変化について試験的な取組を行っていますが、電気自動車に注目した経緯を教えて下さい。

宇髙:京都市では、電気自動車の導入と矛盾するようですが、持続可能な社会・市民が安心して生活できる街を実現するためには、まず自動車の台数を減らすべきだと考えています。街づくりを進める中で最も重要なことは、『歩くまち・京都』を実現させることなのです。市の中心部、碁盤の目は、市民や観光客が集まるエリアですが、道幅が狭い上に自動車の往来も多く非常に危険です。また、街の景観が損なわれたり、交通渋滞の日常化など、市民もストレスを感じています。

そこで、『歩くまち・京都』実現への取組として、市バスや地下鉄などの公共交通機関の定時性の確保や、自転車駐輪場の拡大など、マイカーで移動するよりも“歩く”方が便利だな、と感じられる交通環境づくりを進めています。

大橋:日々の買い物や、送り迎えなどで使用しているガソリン車を、徐々に電気自動車などの次世代コミューターに変えていこう、という提案ですね。

宇髙:そうです。更にこれからは、カーシェアリング（共同利用）[*1]を根付かせたいと考えています。一家で何台もの自動車を保有する暮らしから、複数の家族で1台の自動車を効率よく使うライフスタイルへと変わることで、家計の余計な出費も削減できますし、駐車場も少なくて済みます。そうなれば街の風景が変わりますよ。これまで駐車場であった場所を、公園などの憩いの空間にすることができますし、自動車からの排気熱がぐっと減って、夏が涼しくなります。もちろんCO_2排出も削減されますし、ガソリンなどの化石燃料の消費も抑えられます。

大橋:環境にも、人間にも、いいことばかりですね。

電気自動車活用のメリット、デメリットをもう少し詳しく教えて下さい。

宇髙:電気自動車のメリットとしては、まずガソリン車と比べてエネルギー効率が良いということです。更に、電気代はガソリン代に比べて約1/3、夜間電力を使用すると約1/9と大変経済的です。また、太陽光発電や風力発電など、その地域で作られる電力を有効活用できます。今後は、小水力発電[*2]の普及も期待できますから、京都市内を流れる川をはじめとした、豊かな水資源を活用することも夢ではありません。

反対にデメリットとしては、一回の充電での走行距離が100Km程度（最大で160Km）と限られているため、連続した長距離走行には向きません。また、エンジン音がなく非常に静かなので、路上での接触事故防止のための工夫が必要となります。

御池地下駐車場に設置されている
電気自動車用の急速充電装置

シリーズ「みんなで考える」

京都市が貸し出しを行っている、三菱自動車　i-MiEV

大橋:なるほど、電気自動車の特性を理解し、うまく活用することが大切ですね。

今後、電気自動車の活躍の場は増えてくるのでしょうか。

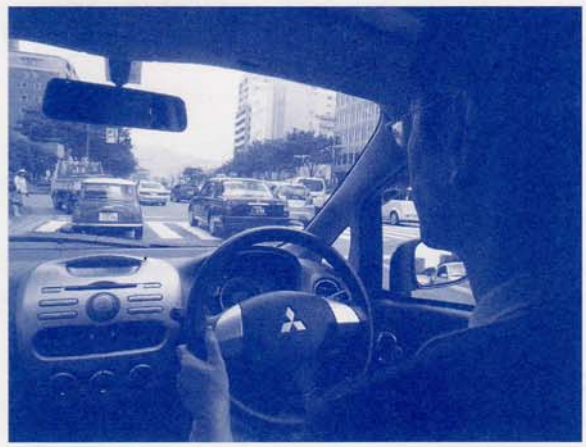
宇髙:はい、近い将来「電動バス」の導入も視野に入れています。これは、一部のバス路線に電動バスを走らせるという社会実験で、現在、国土交通省の支援により実施の準備を進めています。この電動バスの導入には、大規模な工事は一切必要ありません。いつものバスが電動バスに代わるだけ。市民の皆様にも、静かな車内が快適だと感じて頂けるのではないでしょうか。また、観光の目玉としても国内外の注目を集めることは確実ですし、導入が実現すれば京都市の新しい顔になるかもしれません。

電気自動車に注目しているのは行政だけではありません。タクシー会社の中にも、積極的にこれを導入しよう、という動きがあります。広範囲にわたる名所・旧跡巡りにはタクシーが適しています。ここでも電気自動車タクシーの活躍が喜ばれることは間違いないと思います。

大橋:お話を伺っていると、実際に電気自動車に乗ってみたい!という気持ちが膨らんできますが、電気自動車に試乗するためにはどうしたらいいのでしょうか。

宇髙:京都市では、次世代自動車を普及させるため、市民や事業者の皆様に電気自動車(公用車)を貸し出すEVカーシェアリング事業を行っています[*3]。これはより多くの方々に電気自動車や車の共同利用を体験して頂き、ご意見やご要望をお聞きし、更に利用しやすい仕組みとしていくためのモデル事業です。是非、ご参加下さい。

電気自動車の将来は、日本の産業の未来でもあります。資源の少ない日本だからこそ、無駄のない、そしてそれぞれの地域の特性にあった次世代コミューターの開発が不可欠です。高齢者や小さな子どもがいる家庭にとって、生活の足として自動車は必要ですが、これからは、増えすぎた自動車をいかにスリム化できるか、またいかに賢く利用できるかが、暮らしやすい社会の実現のための鍵になると感じました。



基本的な操作は通常の自動車と変わりませんが、エンジン音がなく、車内はとても静か。余計な振動もなく、道路を滑るように走ります。

取材日:平成22年7月23日
取材:松村　香代子

*1　カーシェアリング…レンタカーとは異なり、予め登録をした会員に対して自動車の貸し出しを行うシステム。短時間での貸し出しが設定されている。自動車税や駐車場代、車検などの固定費を複数人で分担するなど、経済的な利点も多い。

*2　小水力発電…小水力発電の規模は定義によって異なるが、概ね10,000kW～1,000kW以下の小規模発電を指す。河川の水を貯めること無く、一般河川、農業用水、砂防ダム、上下水道などを活用してエネルギーを有効利用する発電方式。地域の現状や需要に合わせた、地域密着型の発電方法と言える。

*3　京都市EV(Electric Vehicle)カーシェアリング事業については、本誌6ページをご覧下さい。

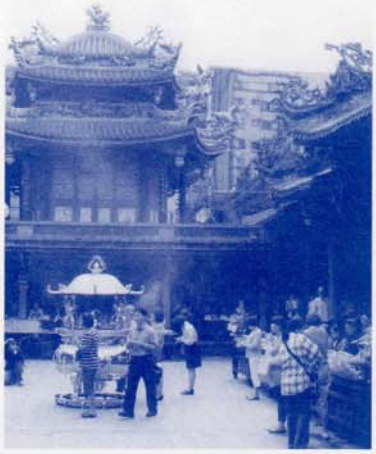
京のこの人にインタビュー

柊野地域女性会ごみ減量推進会議
会長 **山本　玉幸**さん

左側から、副会長 中島ちえこさん、山本会長、
副会長 田中アイ子さん、副会長 安井信子さん

「主婦として、家庭から出るごみのことに関心があった」。山本会長は、地域の環境改善を始めた頃をこう振り返ります。一般に、ごみのこと、地域環境のことは、生活に密着しているにも関わらず意外と知られていません。そんな現実を少しでも良くしていこうと、女性会を中心に、長年古紙回収や勉強会を続けてきました。月に一度の広報誌には、地域の皆さんにも関心を持ってもらえるように工夫しながら、環境にいいことの実践を呼び掛けています。

平成20年には柊野地域女性会ごみ減量推進会議を立ち上げ、使用済てんぷら油の回収や見学会を企画するなど、山本会長の探究心は膨らむばかり。「環境意識を高めるためには、実際に現場を見に行くのが一番」という信念の下、地域の皆さんの関心が高いテーマを選び見学先を提案します。参加者からは、"大変良い経験になった、改めてごみについて考えるきっかけになった"、と反響は上々です。ご自身も、大阪湾広域臨海環境整備センター（通称、大阪湾フェニックスセンター）や東部クリーンセンター、また滋賀県にある大津板紙株式会社などを見学し、環境への認識を深める良い機会になったと話されます。そこで得た情報を持ち帰り、地域の人々に伝えながら、環境意識の向上を図っています。



ごみの回収を工夫している
観光地（台北市）

更に、山本会長の実行力を物語るのが、海外視察。台湾の台北市や、昨年12月にCOP13が開催されたデンマークのコペンハーゲンなどを訪れ、現地の方と交流をしながらその都市の環境対策を肌で学んで来られました。ごみの分別方法は?回収方法は?様々な質問を投げ掛けます。そこで得たアイディアを京都でも実践できないだろうか、山本会長が今温めている取組は、実はこの海外視察で見つけたものでした。

台北市のごみの分別ボックス

台北市は、京都市と同じ観光都市。現地を訪れて驚いたことは、観光地にごみが一つも落ちていない、ましてや、家庭ごみが道端に積み上がっている光景が見られなかったことでした。詳しく話を聞いてみると、観光地では家庭ごみを夜間収集し、しかも住民は収集車に直接ごみを手渡すことが定められている、とのこと。京都市では、事業ごみについては民間業者による夜間収集が基本ですが、家庭ごみは市が日中収集します。「寺社仏閣の周辺だけでも、夜間収集が実現したら、街がどれほど美しくなるか」と、山本会長は女性会本部にも協力を仰ぎ、試験的な取組を提案するための準備を進めています。夜間収集はコストや人員等の面で課題があることから、実現に向けては行政などの関係機関との充分な協議、検討が必要となりますが、「市民からどんどん提案し、実現に向けて努力することが、本当のパートナーシップではないか」と、瞳をきらきらさせて語って下さいました。

このほかにも、コペンハーゲンで15年前から始まった、自転車を無料で借りられるレンタルサイクルのシステムを、京都市でも導入できないか…などなど、街をより暮らしやすくするためのアイディアは尽きません。

コペンハーゲンのレンタサイクルシステムは、市内の重要な交通手段として市民にも観光客にも大いに活用されている。

市民のニーズに合った、より良い街を自分たちでつくろう!という意気込みが、高齢者の元気と生きがいにも繋がります。健康のためにも、積極的に社会参画を!山本会長の若さの秘密は、ここにありました。

取材日:平成22年7月29日
取材:松村　香代子

この機会にぜひ、電気自動車を体験してみませんか!?

京都市EVカーシェアリング事業について

京都市ではH21年度より次世代自動車の普及促進事業として、電気自動車（EV）を市民や事業者の皆様に貸し出すカーシェアリング事業を実施しています。

本実証事業では、電気自動車を多くの皆さまに活用いただくことで、電気自動車の運行情報を広く集め、その情報を活用し電気自動車がより利用し易い公共充電インフラの構築を検討するためのデータ収集を行います。この機会にぜひ、電気自動車を体験してみませんか?

■ 車両の貸し出し料金は無料です。

■ 対　　象　普通自動車免許をお持ちの方

■ 貸出期間　京都市御池駐車場
平成22年6月5日～23年3月27日（土日祝日のみ・12月30日～1月3日を除く）

GSパーク鞍馬口駐車場・タイムズ北大路ビブレ前
平成22年9月1日～11月30日（毎日）

京都市西部方面
平成22年12月1日～23年3月27日（毎日・12月30日～1月3日を除く）

■ 貸出時間　8:30～12:00 14:00～19:00

■ 受付方法　インターネット利用受付（随時受付）
電話受付　045-263-9138（9:30～18:00:土日祝日定休）

※詳細につきましては、インターネットまたはお電話にて、お問い合わせください。

○インターネットでのお申込み　http://windcar.jp/kyotocity.html

○お電話でのお問い合わせ
ウインド・カー株式会社　コールセンター　≪受付時間:9:30～18:00（土日祝日定休）≫
電話番号:045-263-9138

事務局より

今年の6月21日より京都市ごみ減量推進会議のメンバーに加わりました藤田です。身近なエコから社会を動かすエコまで、皆さまの活動に少しでもお役にたてるよう、取り組んでいきたいと思っています。よろしくお願い致します!

これまでも身近な環境問題には関心があったのですが、あまり身近に感じられない難しい問題には、少し距離を置いてしまいがちでした。

でもここで仕事を始めてから、新聞や広告で、環境問題（特にCO_2）を目にすることが30倍くらいになりました。これまでも、たくさん取り上げられていたと思うのですが、私自身が今まで以上に環境問題にどっぷり浸かっているので、"エコセンサー"が増殖しているんだと思います。

やっぱり、常に見聞きすることは大事。1人でも多くの人が"当たり前"の感覚で、エコな行動ができるようになるようがんばります。

京都市ごみ減量推進会議会報誌　こごみ日和　No.45

〒612-0031　京都市伏見区深草池ノ内町13
京エコロジーセンター活動支援室内
TEL：075-647-3444／FAX：075-641-2971
E-mail：gomigen@mbox.kyoto-inet.or.jp
URL：http://web.kyoto-inet.or.jp/org/gomigen/index.html

ゴミゲン・ネット　検索　で検索出来ます

【入会のご案内】
京都市ごみ減量推進会議は、京都市のごみを減らし、環境を大切にしたまちと暮らしの実現に寄与することを目的として、市民団体、事業者、行政により１９９６年１１月に設立した団体です。パートナーシップで多彩な活動を展開中。京都市ごみ減量推進会議では、ともに活動をする会員を募っています。
詳細は、事務局へ問い合わせください。TEL：075-647-3444

企画編集：京都市ごみ減量推進会議　普及啓発実行委員会
（会報誌・ホームページ小委員会）

古紙を含む再生紙に大豆インクで印刷しています。　PRINTED WITH SOY INK